

そう痒感患者へのキュウリローション塗布効果の検証
-皮膚表面pH正常化と睡眠促進効果-

藤井博英¹⁾ 貴田岡博史²⁾ 坪井ふみ子²⁾

畠山なを子²⁾ 昆野順一²⁾ 柏葉英美³⁾
田子内紀子⁴⁾ 角濱春美¹⁾ 伊藤治幸

1) 青森県立保健大学、2) 岩手県立遠野病院

3) 岩手県立二戸高等看護学院、4) 岩手県立久慈病院

Key Word s : ①そう痒感 ②キュウリローション
③皮膚表面pH ④睡眠促進

I. はじめに

我々は、4年前からキュウリローションスプレーを用い止痒効果に関する研究を行なっている。キュウリローションスプレーは難治性の痒みを訴える患者に対して、87%に止痒効果があることを実証した。さらに、止痒効果の根拠の一つとして、痒みの要因である皮膚乾燥を軽減させることも検証した。今回我々は、キュウリローションスプレーをスキンケアに役立てるために、さらなる効果の検証と安全性の確立に向け研究を進めることにした。そこで難治性の痒みを訴える患者に対して、皮膚表面pHの変化を明らかにし、さらに主観的なそう痒感の改善、

睡眠の改善に寄与できるか明らかにすることにした。

II. 目的

そう痒感患者へのキュウリローション塗布は、皮膚表面 pH 正常化、痒みの自覚症状、睡眠促進に効果があるか検証する。

III. 研究方法

岩手県立病院 3 施設（久慈病院・遠野病院・一戸病院）において、慢性・持続性の痒みを訴える患者（白取の痒みの重症度基準 3 以上の患者）で皮膚科的疾患がない（医師に診断してもらう）患者 21 名を対象に、準実験研究（因果仮説検証研究）を行った。

データ分析は、1）キュウリローション使用前後の皮膚表面 pH を単純比較し、2）睡眠は、% sleep, sleep efficacy, sleep episode について前後の比較を行なった。3）白取の痒みの重症度基準については、単純集計し比較した。VAS スケールについて Friedman 検定を行い、多重比較を行った。ソフトは統計 SPSS14.0 for windows を使用し、 $p < 0.05$ を有意差とする。倫理的配慮として、対象者に、研究の趣旨・方法を説明し、同意が得られた場合に行い、本人が判断能力に欠ける場合は、家族の承諾を得た上で行った。

IV. 結果

1. 対象者の属性

対象者の属性は、44～98 歳、平均年齢 62.3 歳 ± 15 歳で、男性 11 名・女性 10 名であった。疾患の内訳は、腎臓疾患 15 名、脳血管疾患 3 名、肝硬変・心不全・尿管腫瘍それぞれ 1 名であった。

2. 皮膚 pH の変化

対象者のキュウリローション使用前と 1 週間使用後の皮膚表面 pH の比較では、平均値では差はみられなかった。

3. 主観的そう痒感

主観的そう痒感の評価として白取の痒み重症度基準を用いた結果、対象者全員の痒みが軽減されていた。平均値では、スプレー直後が 0.9、30 分後が 0.6、60 分後が 0.5 と、徐々に軽減した。1 週間続けた後にも、介入前に比し、低く抑えられていた。

4. 睡眠の変化

有効データは、21 例中 6 例であった。睡眠については、介入前の睡眠が保持された者が 4 名で、悪化したものはいなかった。

V. 考察

今回、キュウリローションの止痒効果の根拠の一つと

して、皮膚水分量増加の他に、皮膚表面 pH の適正化があるのではないかと考えた。今回の結果では、ローション使用後に皮膚表面 pH が若干ではあるが酸性化しており、継続検討が必要であると考えられた。

睡眠については、介入前の睡眠が保持された者が 4 名で、悪化したものはいなかった。保持された者のうち 2 名は睡眠が良好な者たちであった。その他 2 名は、夜間睡眠が不良な者たちであり、この原因が痒みによるものであり、かつ、キュウリローションで軽減できなかったのか、これ以外の要因があったかを検討する必要があると考えられる。2 名には、夜間睡眠の改善が見られた。「睡眠」は、患者の主観的 QOL（生活の質）に最も影響を及ぼす要因であると言われている。これをキュウリローションのスプレーが改善し得たということは、意義の大きな看護介入であると言えるのではないかと考える。

さらに、痒みの主観的評価では、ローションスプレー直後も、1 週間後の継続後においても、有意に減少しており、止痒効果は先行研究同様に証明された。

VI. 文献

石田耕一, 神谷哲朗, 土屋秀一, 他 (1990): 腎透析患者の皮膚 pH について, 日本皮膚科学会雑誌 100 (12), 1275 - 1278.

伊沢凡人 (1996): よく効く野菜くだもの療法 (第 1 版), 62-64, 家の光協会, 東京.

西村咲子 (1990): 痒みの対策としてのヨモギケアに関する研究の推移と課題, 臨床看護研究の進歩 2, 122-130.

杉山みずほ, 成沢麻未, 団塚恵子, 他 (2002): 重曹・尿素・ヨモギ水溶液が皮膚表面 pH 及び皮膚角層水分量に与える影響, 第 33 回日本看護学会, 看護総合, 227-229.

坪井ふみ子, 畠山なを子, 藤井博英 (2005): そう痒感患者の皮膚乾燥に対するキュウリ

ローションの保湿作用の検証, 第 4 回日本看護技術学会抄録集, 76.

VII. 発表

第 7 回日本看護技術学会抄録集, p38